

小金井市立保育園今後の運営について

スライド1

市では、この度、小金井市立保育園の今後の運営に関する方針を策定しました。

スライド3

この方針は、施設老朽化が進むくりのみ保育園、わかたけ保育園及びさくら保育園の3園について、段階的に児童定員を縮小した後に廃園するというもので、小金井保育園及びけやき保育園に人材の集約化を図るものです。

くりのみ保育園及びさくら保育園については、令和5年4月から0歳児クラスの定員を0人とします。

以降、毎年度段階的に定員を縮小することで在園児が卒園する令和9年度末をもって廃園とします。

なお、わかたけ保育園については、2園の状況を踏まえて、今後、時期等を決定します。

スライド4

くりのみ保育園及びさくら保育園を廃園することにより、人材、土地、財源を生み出すことが期待できます。

これら生み出された人材等を活用することで、小金井保育園及びけやき保育園にて保育サービスの拡充を行うほか、(仮称)巡回保育支援チームを設置するなど、市全体の保育サービスの拡充や保育の質の維持・向上を図ることで、「子育て・子育て・教育環境の向上」を図ってまいります。

スライド6

この方針を策定した理由は、5つあります。

1つ目は、子どもの安全を第一に考えた施設老朽化対策

2つ目は、今後の人口減少を見据えた保育定員の適正化

3つ目は、更なるサービス拡充のための予算と人材の確保

4つ目は、公立保育園の運営に関する財源確保の課題

5つ目は、自治体経営の視点において、将来にわたって5園を維持し続けることが難しいためです。

スライド7

1つ目の理由である施設老朽化について説明します。

市立保育園5園のうちの3園がすでに築50年を超える施設となっており、その老朽化は建物だけでなく、給排水などの設備にも及んでいます。

子どもの安全を第一に考え、長寿命化よりも、今から対応を定めることで、安全・安心な保育を継続しながら、計画的に対応していくことができます。

スライド8

次に、2つ目の理由である人口減少や待機児童などの状況について、説明します。

これまで、市の0歳から5歳までの人口は、微増傾向にありましたが、令和4年度から減少に転じ、来年度以降も減少していくことが見込まれます。

0歳児人口に着目すると、令和2年5月に1,000人を切って以降、1,000人未満という状況が続いています。

スライド9

一方、待機児童については、9年間で保育園の定員を約2.3倍に増やしてきたことで、待機児童が最も多かった平成26年4月の257人から、令和4年4月は11人まで減少しました。

また、保育園を増やしてきたことで、各保育園の定員に空きが生じており、その数は年々増加傾向にあります。今年4月は0歳児で74人、0～2歳の合計では133人の空きが生じています。

スライド10

3つ目の理由について、説明します。

市では、多様なニーズへの対応及び保育の質の向上を軸に「今後の保育施策の方向性」を定めた「小金井市すこやか保育ビジョン」を令和3年3月に策定しました。

今後も更なる保育施策の充実を図るためには、このビジョンに記載されている各種取組を行っていく必要がありますが、そのためには、更なる予算と人材の確保が不可欠となります。

スライド11

次に、4つ目の理由について、説明します。

保育園の建設・建て替え経費や運営経費については、民間であれば国や東京都の財政支援を受けることができますが、公立保育園の場合は、すべて市が全額を負担する制度となっています。

国や都の財政支援が受けられないことは、老朽化する施設の建て替えのみならず、運営費においても、大きな課題となっています。

スライド12

5つ目の理由について、説明します。

待機児童解消のために全国的に保育園を増やした結果、保育士不足が慢性化しています。

国や都は保育士確保のため、保育士等の処遇改善を行ってきましたが、その対象は、民間保育園で働く保育士等に限定したものとなっていることなどから、市職員である保育士の確保が難しくなっており、人材確保が大きな課題となっています。

さらに、老朽化の課題、国や都からの財政支援が受けられない課題などから、公立5園を維持し続けることが難しくなっています。

スライド14

市では、実に20年以上もの間、市立保育園の運営方法について、検討を重ねてきましたが、いまだ結論に至っていません。

そのような中、一つの解決策として、市立保育園を民間に移譲し、民設民営の保育園として運営してもらおう、いわゆる「民営化」という手法を考えていましたが、実現には至りませんでした。

そこで、市が改めて検討しなおす上で、一番優先したことは、今、公立保育園に通う子どもたちに対し、将来にわたって安全・安心な保育が実施できるかどうかについてでした。

廃園はとてつらく悲しい方法ではありますが、今、園に通うお子さんに対して、民営化とは異なり、最後まで市が責任をもって直接保育できること、また在園のお子さんが卒園するまで、6年間という時間をかけていくことができます。

スライド15

次に、くりのみ保育園、さくら保育園の段階的縮小期間の運営の、基本的な考え方について、説明します。

スライド16

段階的縮小期間は、毎年順次、定員を縮小しますので、令和5年4月以降は1歳から5歳までのクラスになります。その後、毎年定員を縮小していきませんが、定員が0人でないクラスについては、原則、定員まで募集する予定です。

次に、職員体制ですが、保育士については、毎年の児童定員数に応じて必要な人数を配置することとなりますが、できるだけ緩やかに減らしていく予定です。

また保育士以外の看護師などについては、最後まで配置します。

スライド17

在園児童及び保護者の方に対しましては、大きく3つの対応を予定しています。

1つ目。転園を希望される方には、在園児が転園する場合の調整指数のマイナスを適用しないなど、他との公平性を保ちながら、一定の入所指数での配慮を行います。

2つ目。最後まで安全・安心な保育を行うため、老朽化した施設に対して必要な修繕等を行うほか、給食については最後まで自園で調理し提供します。

3つ目。お子さんの人数が少なくなっても、異年齢で触れ合う機会を保障するため、市内の保育園との交流、近隣小学校との交流、園庭を利用した地域との交流など、可能な限り保育の工夫を行います。

在園児童及び保護者の方への対応につきましては、今後も引き続き検討を行い、できる限りの対応を行ってまいります。

スライド18

次に、跡地利用についての考え方について、説明します。

スライド19

実際に跡地が他の用途で利用できるのは、早くても6年以上先となります。

そのため、今は、売却を前提としない考え方のみを決めました。

具体的な活用方法については、今後、検討スケジュールを策定・公表した後、これまで保育園であったことを十分に踏まえつつ、子どもたちのために、市民参加を交えた検討を行い、決定していきます。

スライド20

方針策定に当たり、費用についても試算を行いました。

現在の公立保育園5園を全て維持した場合と、2園を段階的に縮小の後に廃園した場合とを比較すると、廃園した場合のほうが、10年間に係る経費比較では、27.1億円の経費節減との試算となっています。

スライド21

段階的縮小（廃園）によって、保育士等の経験のある人材を集約することで、実施を予定している保育サービスの拡充について、ご紹介します。

スライド22

はじめに、残る3園の公立保育園におけるサービス拡充です。

特別支援保育については、現在5園で11人の枠を、3園で12人に増やすと共に、3歳クラス以上という年齢制限の撤廃も行います。

また、これまでも対応していますアレルギーのある児童への対応や要保護児童・要支援家庭への支援について、充実を図ります。

そして、人材の集約化を図り、小金井保育園及びけやき保育園の保育士を拡充し、園庭開放や子育て相談等、地域への子育て支援の充実を図ってまいります。

スライド23

次に、市内全体の保育サービスの拡充について、ご紹介します。

市役所保育課に、新たに「(仮称)巡回保育支援チーム」を設置し、市内の保育園同士の連携や交流を図るほか、各園を巡回しての支援等を行うことで、民間保育所とも連携・協力しながら、小金井市の保育を支えてまいります。

また、令和3年3月に策定しました「保育の質のガイドライン」について、市内の保育園への周知・活用の促進を図るほか、保護者や市民への周知・啓発など、段階的に進めることで、小金井市の保育の質の向上に努めて参ります。

スライド25

公立保育園の運営については、これまで長い間、検討してきましたが、その間にも公立保育園を取り巻く状況は大きく変化し、限られた人材・財源の中で、サービスの拡充が求められています。

このような中、老朽化が進み施設の耐用年数が迫っている公立保育園の将来を見据えた対応は、早期に取り組まなければなりません。

保育園を廃園とすることは、大変苦しい決断でもあり、現在在籍されている方、保育園を卒園された方、近隣にお住まいで今まで保育園の運営にご協力をいただいていた方から、様々なご意見を頂戴しています。

その上で、園舎が老朽化する公立保育園3園については、当該園に通う児童が安心安全に在園し卒園できるタイミングは今しかないと考え、市としてこの方針を定めました。

皆さまには、公立保育園の現状と課題について、是非ともご理解いただき、ご協力をいただきたいと思います。

スライド26

最後まで、ご視聴いただきまして、誠にありがとうございました。